

6. 事業の効果把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果

本事業を活用した小中高生が、将来県内企業等に就職し、産業振興に貢献する。

指標Ⅰ

指標名

推奨講座の講座数(回)

指標の種類

指標式

科学関連施設が実施する講座のうち、科学技術の基礎となるものづくりや実験を行う講座である「あきたサイエンスクラブ」推奨講座の講座数

成果指標

業績指標

①年度別の目標値(見込まれる成果による指標)

指標	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	最終年度
目標a	—	—	103	105	107	109	111	
実績b	115	100	②データ等の出典					
東北	不明		地域産業振興課調べ					
全国	不明							

③把握する時期

当該年度中

 月

翌年度

 月

翌々年度

 月

指標Ⅱ

指標名

科学講座の受講者数(人)

指標の種類

指標式

県が開催する科学講座の受講者数

成果指標

業績指標

①年度別の目標値(見込まれる成果による指標)

指標	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	最終年度
目標a	—	—	36	39	42	45	48	
実績b	35	34	②データ等の出典					
東北	不明		地域産業振興課調べ					
全国	不明							

③把握する時期

当該年度中

 月

翌年度

 月

翌々年度

 月

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性

県内企業は「新しいビジネスモデルへの転換」を迫られており、技術革新やデジタル化を促進することで、コスト削減や生産性向上、さらには新たな付加価値を創出していかなければならない。創出・革新を支える理系人材の育成が急務であるが、そのためには、大学進学前の小中高生に対して実践的な学びの場を提供することが必要である。

住民ニーズに照らした事業の必要性

通常行われている学内の授業とは別に、同一のテーマに関心を持つ学外の人材との交流、学年を超えた交流の場を提供することで気づきや相互啓発が促されるなど参加した多くの学生・生徒から高評価を得ている。また、大学等が有する高度な設備や専門人材、地域の科学系イベントに参加することで将来の技術系人材育成に加え、地域との結びつきを深める本事業に対するニーズは高い。

事業の県関与の必要性

法令・条例上の義務

内部管理事務

県でなければ実施できないもの

民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

本事業のメインの取組である科学講座は、元々科学に関心のある生徒の能力をさらに高めることを目的に、大学教員の直接指導による、座学と実験等が一体となった難易度の高い内容となっており、他の教育機関が単発で実施している講座等とは差別化を図り、将来の本県産業の人材を育成するという観点から、県が一貫して実施することが不可欠である。

政策評価委員会意見

重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定

重点事業

その他